

東科協2017-005

代表者様または協会ご担当者様へお願いです。

ぜひ社員の皆さまへ本案内をご回覧くださいますようお願いします。社員の方のプライベートによるご参加も大いに歓迎しております。

2017年2月吉日

会員各位

東京科学機器協会

交流・厚生委員会

委員長　竹田拓人

第14回　サイエンスバー「かがく食堂」開催のご案内

「天体観測と宇宙観」①

このたびは、国立天文台　名誉教授　家正則先生をお迎えして開催いたします。

天文学の専門家である家先生に、天体観測の発展の歴史という切り口から、宇宙論の変遷についてお話しいただきます。

本テーマは、全二回シリーズで開催予定。今回の①では、16世紀から20世紀前半までを扱う予定です。

科学の発展には、理論と実証が両輪の関係にあります。

コペルニクスは太陽中心モデルの理論を提唱、ケプラーが天体の運行の法則を見抜き、ニュートンの力学理論とガリレオが発明した望遠鏡が天文学の基盤となりました。人類の宇宙観を大きく変えたハッブルの発見から未だ100年経っていませんが、その後の観測技術の進歩による宇宙の理解は驚きの連続でした。

最新の素粒子物理学の知見は、一般人の理解を超える面がありますが、天体観測結果は万人の疑いのない事実です。新たな観測は、理論を裏付けするだけでなく、しばしば新しい理論を促します。

天体観測のプロ中のプロによるお話しを、ぜひお楽しみください。

家先生は、ハワイに８ｍすばる望遠鏡を建設し、2006年には130億光年かなたの世界記録となる銀河を発見されました。現在は、天文学のさらなる躍進が期待される30ｍ望遠鏡TMTを5か国の国際協力で建設する計画に東奔西走しておられます。2回目はこのあたりのお話しが予定されています

皆様のふるってのご参加をお待ちしております。

記

* テーマ：「天体観測と宇宙観」①

　－ 16世紀（ケプラー、ガリレオ）から20世紀前半までの天文学の変遷 －

* 講師：家　正則 先生　　国立天文台　名誉教授
* 日時：2017年**３月１４日（火）**　午後6時30分から午後9時00分（受付：午後6時10分）
* 会場**：ムロマチカフェ　ハチ**（中央区日本橋室町4-4-10　東短ビルB1F）
* 募集人数：15人
* 申込期間：2月14日（火）9時から2月28日（火）**＊だたし、定員に達し次第、締め切ります＊**
* 会　　費：会員5,000円程度、非会員6,000円程度

切り離さずこのままお送りください

〈参加申込書〉

会社名：　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　TEL:　　　（　　　）

役　職：　　　　　　　　　　　　　　　　　氏　名：

**e-mail：**

※上記e-mailアドレスへ、申込み受付の可否をはじめ本事業に関する連絡を配信いたします。

お間違えのないよう、丁寧に、必ずご記入ください。　　　　　 Web:2017.2.14

※**2月14日（火）9時**から**申込みを受付**けます。**申込み先FAX番号：03-3668-0324**